



施設で教育される児童に囲まれる  
(後列右から) 西林総領事、ナシメント青少年保  
護員  
(団体関係者)、ウー議員



日の丸を持つ子供達はいっせいに「ありがとう」



新築の幼児教室

2005年11月30日、サンパウロ市東部のパルケ・ボツルス友の会のホールにて、同会のナシメント会長、カラメス州議会議員、ウィリアム・ウー市会議員、マタラゾ区アフォンソ区長の他、同会関係者、警察関係者、地域住民、児童等約150名が出席しました。

ナシメント会長はこの幸せを表現する言葉もないと述べ、我が国協力に対して感謝を示しました。

アフォンソ区長は、「日系人はブラジル社会に対する配慮を欠かしたことがなく、本件協力に対して総領事を通して日本国民に感謝したい」と述べました。

ウー議員は「日本人の子供として誇りを持って日本の話をしたい。日本は戦争で苦勞し、世界平和を求めている。そのためには日本だけではなく、世界全体が良くならなければいけないと考え

ており、故フランススコ会長も同じ考えであった。自分も同感で、社会全体が良くなれば治安も良くなり平和になるだろう。だから、今回のプロジェクトの成功をパルケ・ボツルス友の会、日本政府に感謝したい」と挨拶しました。

西林総領事は「施設が新設され、これまでより多くの子供達が良い環境で保育を受けられるようになったことに貢献できたことを嬉しく思う」と挨拶し、故フランススコ会長の遺志を継いでプロジェクトを完成された関係者の皆さんに敬意を表しました。

挨拶後、日の丸を持った子供達の行進、子供達によるバレーの披露、記念プレート除幕式、施設見学が実施されました。



○ 上記案件のプロフィール

案件名：  
「サンパウロ貧困住民支援施設  
新築計画」

被供与団体：  
パルケ・ボツルス友の会

契約署名日：2004年12月13日

供与限度額：86,753米ドル



新築の幼児教室

案件概要：

「パルケ・ボツルス友の会」は、1959年に設立されたNGOで、周辺貧困住民のために保育園運営、職業訓練、ミルクの支給、健康相談、保健関係講演会等を実施しています。今回の協力は、45年間利用して来た施設が老朽化しているため、同じ土地に施設を新設したもので、同団体の社会福祉活動の質的向上及び量的拡大が可能になります。